

20～40代の出産と子育て

- 第8回結婚・出産に関する調査より -

株式会社明治安田生活福祉研究所（代表取締役社長 前田 茂博）は、2014年3月に、全国の20歳～49歳の男女3,616人を対象に、「出産・子育て」等をテーマとする調査を実施しました。

本リリースでは、出産や子育ての実態、保育サービスに対する考え方、女性の就労の実態などについて、ご紹介します。

< 主な内容 >

| | | |
|---|---|--|
| <p>○子どもが欲しい割合 30代前半 男女とも8割 30代後半 男性7割 女性4割強 震災後、上昇傾向 (4ページ)</p> | <p>○理想の子どもの人数 理想は2.35人 震災後、増加傾向 (5ページ)</p> | <p>○妊娠・出産で仕事をやめた女性の割合 正社員では73% 契約社員・派遣社員 パートでは91% (6ページ)</p> |
| <p>○女性の働き方 理想と現実にギャップ 子どもが中学生になったら正社員が理想 52% 実際、正社員は 14% (7ページ)</p> | <p>○保育関連施設への満足度は8割 ○充実を期待するサービス リーズナブルな料金 42% 利用時間の延長 32% 病児保育 31% (9ページ)</p> | <p>○20～40代男性の51%が育児休業を取得したい ○希望する育児休業期間は男女間で大きな差 1ヵ月以下を希望 男性47% 女性2% (11ページ)</p> |
| <p>○積極的に育児参加している男性は7割 女性からの評価は低め ○夫が育児に消極的な理由 男女間で意識格差 (13ページ)</p> | <p>○男性の家事・育児参加には長時間労働の是正 柔軟な働き方の推進 職場の理解 男性の意識 いずれも6割の支持 (14ページ)</p> | <p>○教育資金の準備 20～40代 77%が準備 子ども1人あたり月1～2万円 ○子どもの数が多いほど伸び伸び子育て志向 (15ページ)</p> |

| | | |
|------|----------------------------------|--|
| ご照会先 | ㈱明治安田生活福祉研究所 生活設計研究部 横田・笹木 | 電話：03(3218)4014 FAX：03(3201)7837 Eメール：ksasaki@myilw.co.jp |
|------|----------------------------------|--|

＜ 調査の概要 ＞

- (1) 調査対象： 全国の20歳以上49歳以下の男女
- (2) 調査方法： WEB アンケート調査（株式会社マクロミルの登録モニター対象）
- (3) 調査時期： 2014年3月21日～3月24日
- (4) 回収数： 3,616人

(5) サンプルの属性 (上段：人数、下段：%)

| | | 20～24歳 | | 25～29歳 | | 30～34歳 | | 35～39歳 | | 40～44歳 | | 45～49歳 | | 計 |
|----|-------|--------|-----|--------|------|--------|------|--------|------|--------|-----|--------|-----|-------|
| | | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | |
| 未婚 | | 103 | 103 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 52 | 52 | 52 | 52 | 1,344 |
| | | 2.8 | 2.8 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 1.4 | 1.4 | 1.4 | 1.4 | 37.2 |
| 既婚 | 子どもなし | 16 | 88 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 52 | 52 | 52 | 52 | 930 |
| | | 0.4 | 2.4 | 2.8 | 2.8 | 2.8 | 2.8 | 2.8 | 2.8 | 1.4 | 1.4 | 1.4 | 1.4 | 25.7 |
| | 子どもあり | 49 | 55 | 103 | 103 | 155 | 155 | 155 | 155 | 103 | 103 | 103 | 103 | 1,342 |
| | | 1.4 | 1.5 | 2.8 | 2.8 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 2.8 | 2.8 | 2.8 | 2.8 | 37.1 |
| 計 | | 168 | 246 | 361 | 361 | 413 | 413 | 413 | 413 | 207 | 207 | 207 | 207 | 3,616 |
| | | 4.6 | 6.8 | 10.0 | 10.0 | 11.4 | 11.4 | 11.4 | 11.4 | 5.7 | 5.7 | 5.7 | 5.7 | 100.0 |

(6) サンプル数について

この調査では、上記の各属性ごとに相当数のサンプルを収集して分析を行なうことを目的としています。そのため、当資料では人口比等による補正は行なっておりません。

< 目次 >

| | |
|---------------------------|-------|
| ○子どもを持つことについての意向 | P. 4 |
| ■子どもを持ちたい意向 | |
| ■子どもは何人が理想 | |
| ○子育てと女性の就労 | P. 6 |
| ■妊娠・出産時の仕事の継続状況 | |
| ■仕事をやめた理由 | |
| ■女性の理想の働き方 | |
| ○保育関連サービス・施設の利用状況とニーズ | P. 8 |
| ■保育関連サービス・施設の利用状況 | |
| ■保育関連施設を選ぶ際に重視したこと | |
| ■保育関連施設に対する満足度 | |
| ■充実させてほしい保育サービス | |
| ○男性の育児参加についての意識と実態 | P. 11 |
| ■男性の育児休業の取得意向と実際 | |
| ■男性が育児休業を取得したくない理由 | |
| ■男性が育児休業を取得したい期間 | |
| ■夫の育児参加状況 | |
| ■男性の家事・育児への参加を促すために必要なものは | |
| ○子育てとお金 | P. 15 |
| ■教育資金の準備状況 | |
| ■子育てでお金をかけたいもの | |

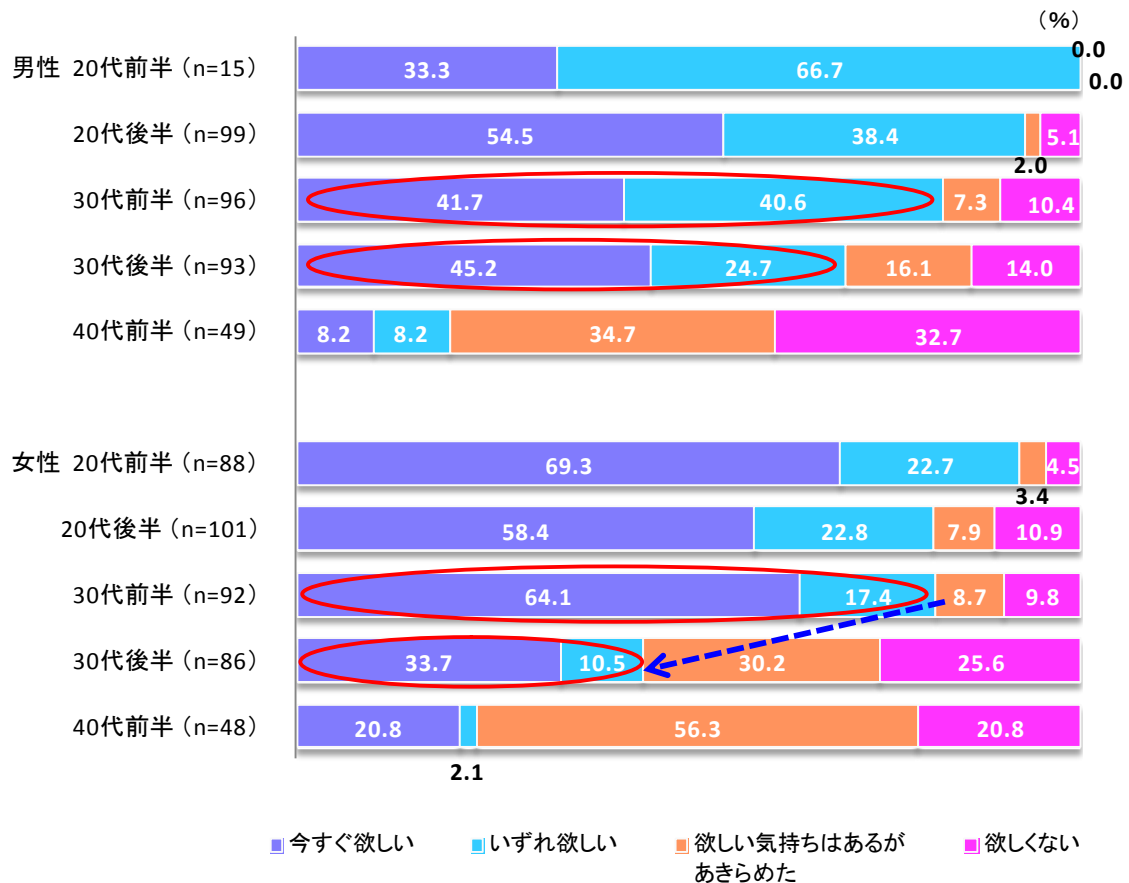
**「子どもが欲しい」… 30代前半男女8割強、30代後半 男性約7割・女性4割強
欲しい子どもの人数 … 理想は2.35人
震災後、上昇傾向**

■ **子どもを持ちたい意向**

◇ **子どもを持ちたい意向は30代前半と後半で大きな差**

・子どもがいない既婚者のうち、「子どもが欲しい」（今すぐ欲しい+いずれ欲しい）人の割合は男女とも30代前半では8割強（男性82.3%、女性81.5%）ですが、30代後半から低下しています。特に女性は大きく低下（30代後半の女性は44.2%）しており、子どもを持ちたい意向は、30代半ばがひとつの節目と言えそうです（図表1）。

図表1 子どもが欲しいと思うか（子どもがいない既婚者）

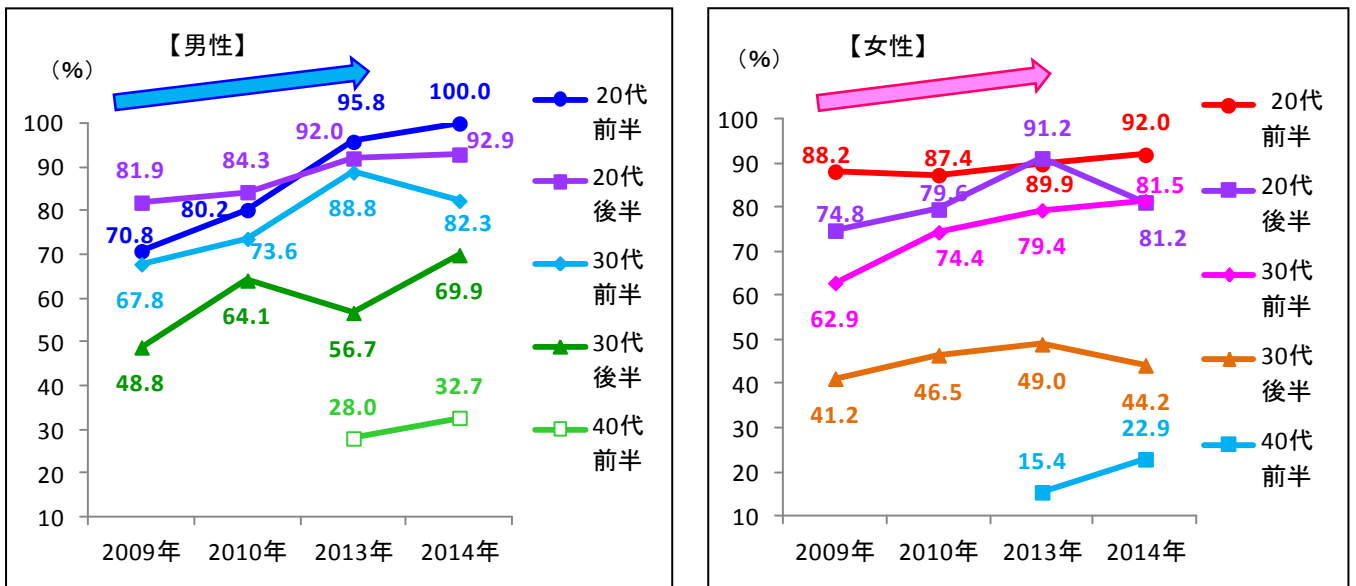


◇ **子どもを持ちたい意向は2010年以前に比べ上昇傾向**

・2009年からのトレンドを見ると、子どもを持ちたい意向は男女とも上昇傾向です。特に、「子どもが欲しい」40代前半の女性が2割強（22.9%）に上る点は注目されます（図表2）。

・震災以降の“家族や絆”に関する意識の高まりや不妊治療に関する話題、また、元モーニング娘の中澤裕子さん（39歳で出産）や、吉瀬美智子さん（38歳で出産）、辺見えみりさん（36歳で出産）、永作博美さん（42歳で第2子出産）といった芸能人の30代後半以降の出産やお笑いタレントの森三中大島美幸さんの妊活の話題なども影響しているのかもしれない。

図表2 子どもが欲しい（今すぐ欲しい+いずれ欲しい）割合の推移（子どもがいない既婚者）

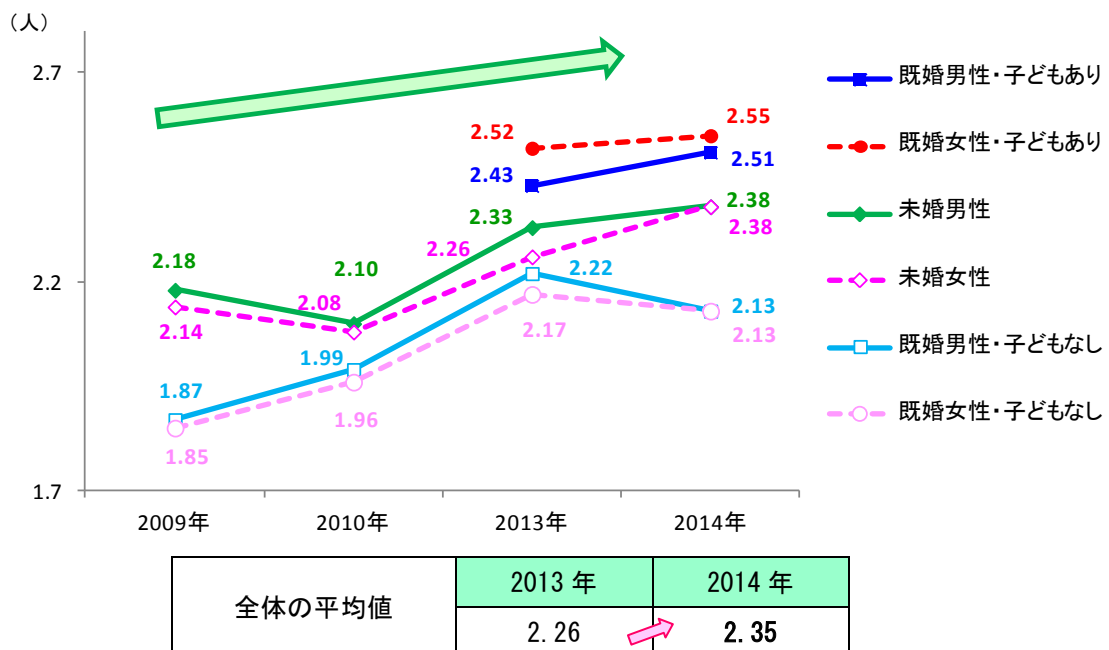


■子どもは何人が理想

◇理想は2.35人。震災後、増加傾向

- 理想の子どもの人数は、全体平均では2.35人で、前年調査（2.26人）より増加しました。2009年からのトレンドも増加傾向であり、特に2010年以前とは大きな差が見られました。男女間では大きな違いは見られません。
- ここでも震災後の家族に関する意識の変化が見受けられます。また、児童手当、高等学校等就学支援制度、その他政府・自治体等が様々な少子化対策を進めていることなども、「理想の子どもの数」という“意識”の面にプラスの影響を与えていることが考えられ、出生率の向上も期待できるかもしれません。

図表3 子どもは何人が理想か（20・30代で、子どもがいる人、子どもが欲しい人が対象）



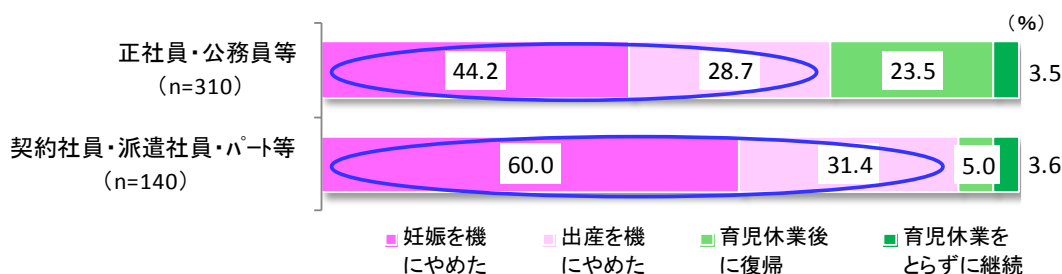
妊娠・出産を機に仕事をやめた女性 … 正社員 73%、パート等 91%
退職理由 … 家庭や子育てを優先したい意向が最多。職場環境の不十分さも理由に

■ 妊娠・出産時の仕事の継続状況

◇妊娠・出産時に仕事をやめた女性 …正社員の 72.9%、契約社員・派遣社員・パートで 91.4%

- ・結婚前に正社員・公務員等だった人のほぼ 4 人に 3 人 (72.9%) が第 1 子の妊娠・出産を機に仕事をやめており、「育児休業後に仕事に復帰」した人と「育児休業をとらずに仕事を継続」した人は合わせても 3 割弱 (27.0%) でした。
- ・契約社員・派遣社員・パート等だった人では、9 割強 (91.4%) が仕事をやめています。
- ・妊娠・出産で女性の就業がリセットされるケースが大勢である実態がうかがえます (図表 4)。

図表 4 第 1 子の妊娠・出産の時、仕事はどうしたか (妊娠・出産時に仕事をしてきた 20~40 代女性)

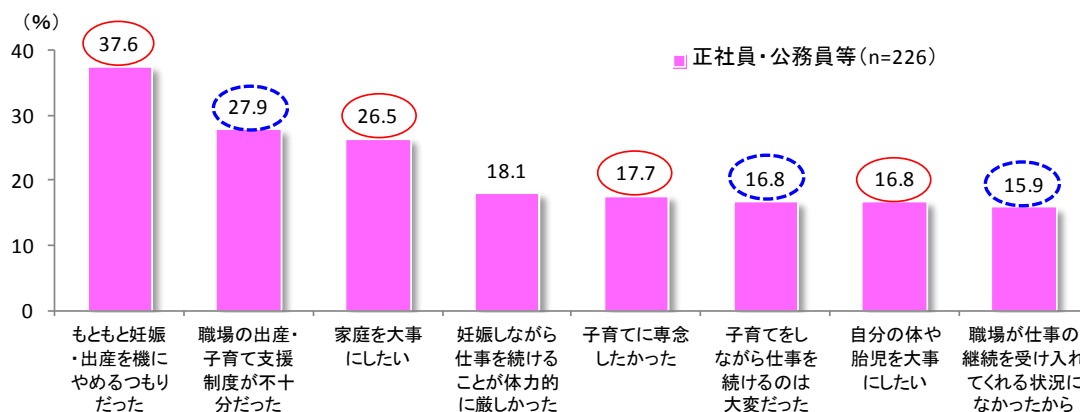


■ 仕事をやめた理由

◇正社員の女性が仕事をやめた理由 …4 人に 1 人が「職場の出産・子育て支援制度が不十分」

- ・結婚前に正社員・公務員だった人が仕事をやめた理由 (複数回答) としては、「もともと妊娠・出産を機にやめるつもりだった」「家庭を大事にしたい」「子育てに専念したかった」「自分の体や胎児を大事にしたい」など、「家庭や子育てを優先したい」意向が多く見られます。
- ・一方で、「職場の出産・子育て支援制度が不十分」を 4 人に 1 人 (27.9%) が挙げ、「子育てをしながら仕事を続けるのは大変」「職場が仕事の継続を受け入れてくれる状況になかった」も 6 人に 1 人が挙げるなど、「職場環境が理由のケースも少なくありません」 (図表 5)。

図表 5 第 1 子の妊娠・出産時に仕事をやめた理由 (結婚前、正社員・公務員だった 20~40 代女性: 複数回答)



**女性の働き方 … 子どもの成長過程に応じた働き方を求めるも
現実とは大きなギャップ
子どもが中学生になったら正社員 … 理想は52% 実際は14%**

■ 女性の理想の働き方

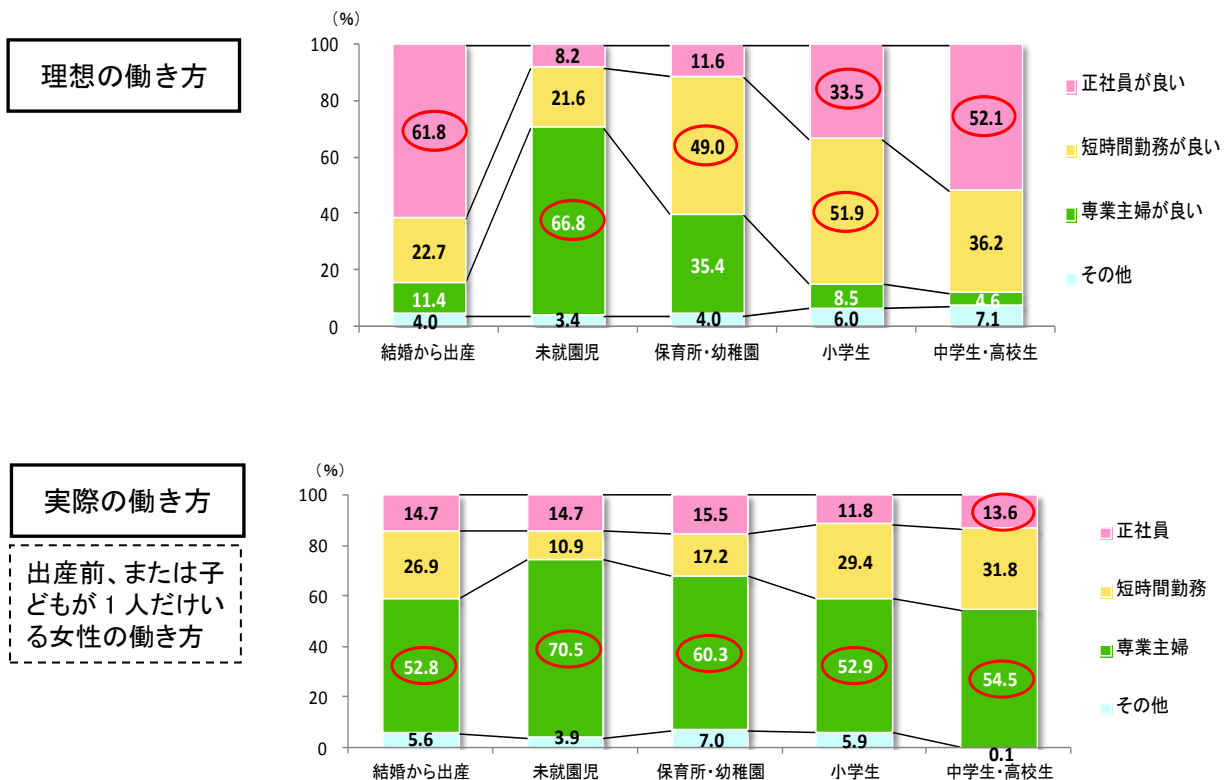
◇ 出産までは正社員、子どもが保育所から小学生までは短時間勤務、子どもが中学生になったら正社員

- ・女性のライフステージにおける理想の働き方は、結婚から出産までは「正社員」、子どもが未就園児の時期は「専業主婦」、保育所・幼稚園および小学生の時期は「短時間勤務」、中学生以降の時期は「正社員」との回答が最多です。
- ・3人に1人は「子どもが小学生になったら正社員が理想」、2人に1人は「子どもが中学生になったら正社員が理想」と回答しています（図表6）。

◇ 理想の働き方と現実にギャップ

- ・実際の働き方は、理想とのギャップが見られます。
出産前の働き方の理想として61.8%が「正社員」を挙げたのに対し、実際には14.7%にとどまっています。
子どもが1人いて保育所・幼稚園の時期の場合、理想としては60.6%が働くことを挙げていますが、実際に就労している人は32.7%。また、子どもが小学生の時期は85.4%が働くことを理想としているのに対し、実際には41.2%の就労率となっています（図表6）。
- ・就労形態の内訳で見ても、前述のとおり、子どもが中学生以上になれば過半数（52.1%）が正社員を理想と考えていますが、実際には、正社員は13.6%にとどまっています。

図表6 女性のライフステージに応じた理想の働き方と実際（20～40代既婚女性）



保育関連施設を選ぶ際に重視したこと

働く女性は、「利用時間」「小さい年齢から預けられる」

専業主婦は、「施設スタッフの接し方」「保育・教育方針」

■ 保育関連サービス・施設の利用状況

◇働くママは「保育所」や「学童保育」、専業主婦は「幼稚園」や「子育て支援センター」の利用が多い
 ・利用したことがある子育てに関連するサポート・サービスは、妻の就業形態によって特徴が見られます。

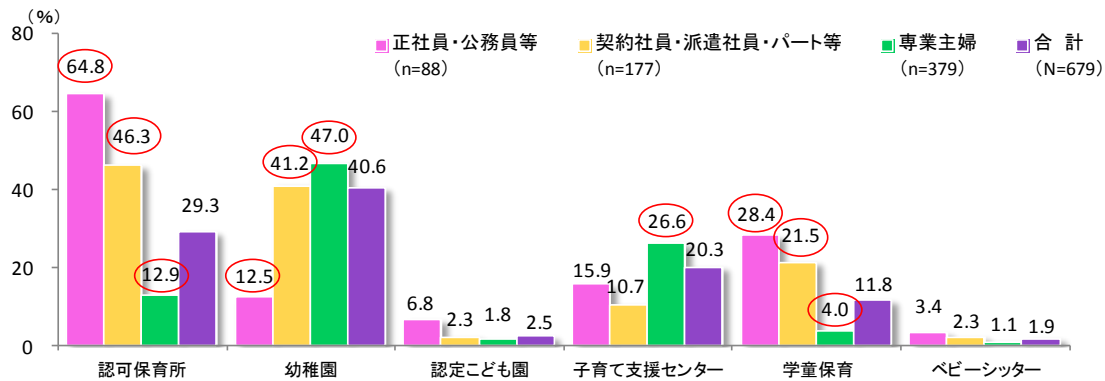
「認可保育所」は、正社員 64.8%、パート等 46.3%、専業主婦 12.9%。

「幼稚園」は、正社員 12.5%、パート等 41.2%、専業主婦 47.0%となっています。

「学童保育」は、正社員 28.4%、パート等 21.5%、専業主婦 4.0%です。

・専業主婦は、「子育て支援センター」の利用が 26.6%と正社員やパート等より多く、地域の支援センターが子育てに悩む専業主婦の心強い味方になっているようです（図表 7）。

図表 7 子どもが利用した子育て関連サポート・サービス（20～40代既婚女性：複数回答）

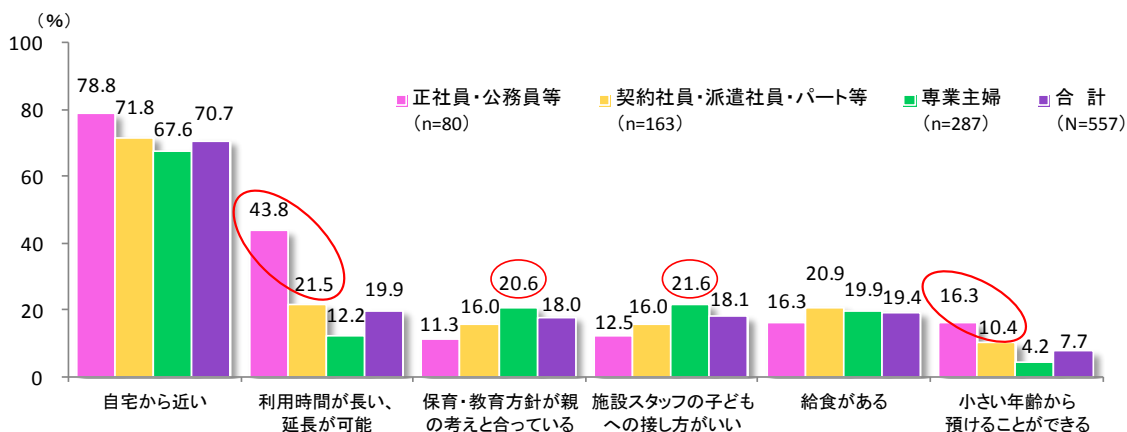


■ 保育関連施設を選ぶ際に重視したこと

◇働くママは「利用時間」「小さい年齢から預けられる」、専業主婦は「スタッフの接し方」「教育方針」等を重視

・保育所・幼稚園・その他の施設サービスを利用する（利用した）際に重視したことは、「自宅から近い」ことがトップですが、正社員やパート等では、「利用時間が長い、延長が可能」「小さい年齢から預けることができる」が専業主婦よりも高く、専業主婦では、「施設スタッフの子どもへの接し方がよい」「保育・教育方針が親の考えと合っている」が他の属性より高くなっています（図表 8）。

図表 8 保育所・幼稚園・その他の施設を選ぶ際に重視した項目（20～40代既婚女性：3つまで選択）



保育関連施設に対する満足度は8割

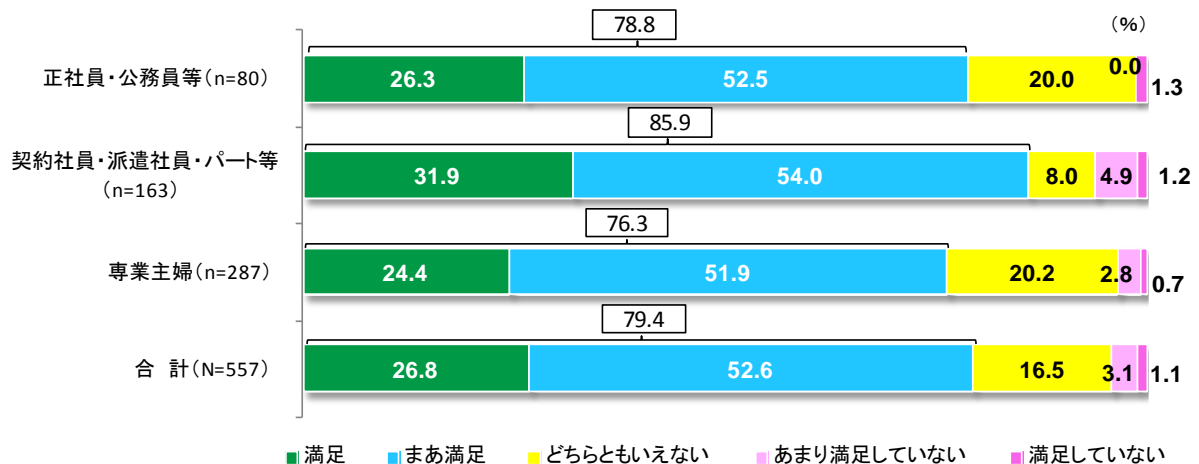
充実を期待すること「リーズナブルな料金」「利用時間の延長」「病児保育」

■ 保育関連施設に対する満足度

◇利用した保育関連施設の満足度は8割。専業主婦の満足度がやや低め

- ・利用している（していた）保育所・幼稚園・その他の施設サービスへの満足度（満足+まあ満足）は、全体では約8割（79.4%）と総じて高くなっています。正社員等78.8%、契約社員・派遣社員・パート等85.9%に対し、専業主婦は76.3%とやや低めです（図表9）。
- ・働く女性の場合、まずは預けられること（小さい年齢から預けられる、利用時間の融通がきく等）を重視していますが、専業主婦はスタッフの子どもへの接し方や保育・教育方針などを重視しているケースが相対的に多いことなどから、期待水準が高いケースも多く、結果的に満足度が正社員等、契約社員・派遣社員・パート等よりやや低くなっていることが考えられます。

図表9 利用している（していた）保育所・幼稚園・その他の施設に対する満足度（20～40代既婚女性）



■ 充実させてほしい保育サービス

◇「リーズナブルな料金」「利用時間の延長」「子どもが病気の時も利用できる」が上位

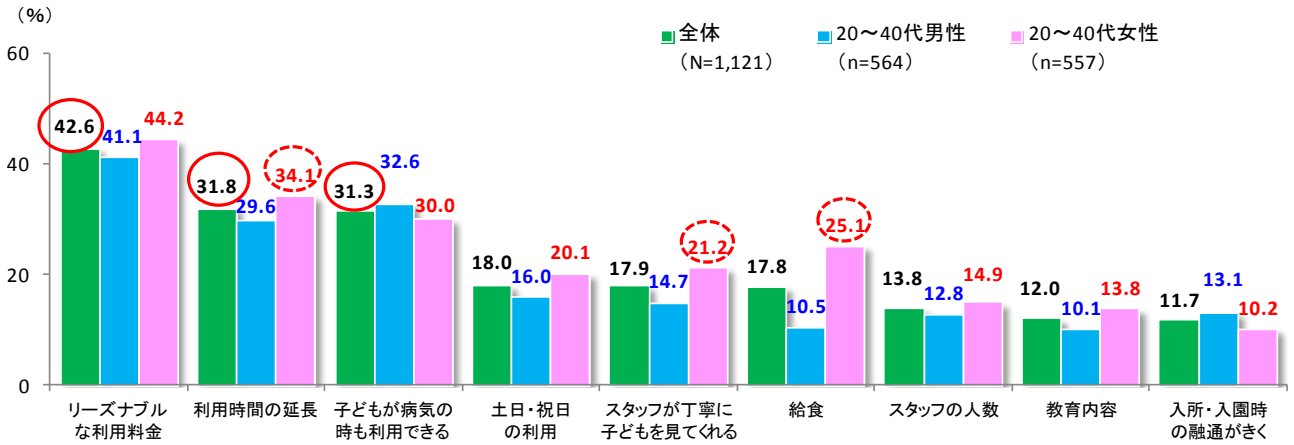
- ・保育所・幼稚園・その他の施設サービスで、充実させてほしいと思う（思った）もの（複数回答）は、「リーズナブルな利用料金」が4割強で、「利用時間の延長」「子どもが病気の時も利用できる」が3割強です（図表10）。
- ・女性は男性よりも「給食」「スタッフが丁寧に子どもを見てくれる」「利用時間の延長」の充実を望む声が多くなっています。
- ・女性の年代別に見ると、「リーズナブルな利用料金」「子どもが病気の時も利用できる」「土日・祝日の利用」が若い年代ほど高く、「教育内容」は40代で高くなっています。

◇働くママは、「子どもが病気の時も利用できる」「土日・祝日の利用」のニーズが高い

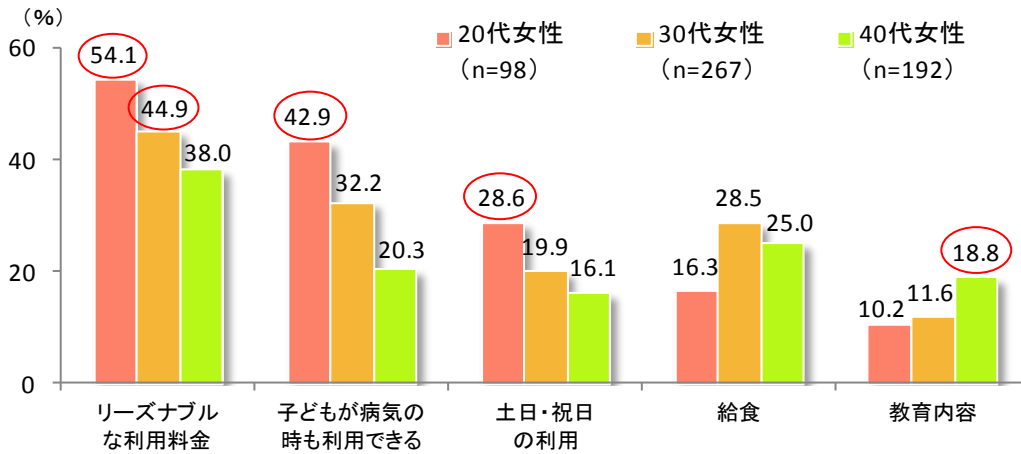
- ・就労形態別に見ると、正社員や契約社員・派遣社員・パート等では「子どもが病気の時も利用できる」「利用時間の延長」「土日・祝日の利用」が専業主婦より高く、特に、正社員の51%が病児保育を、42%が利用時間の延長を期待しています。一方、専業主婦では「スタッフが丁寧に子どもを見てくれる」が働く女性より高い状況です（図表10）。

図表 10 充実させてほしい保育サービス（20～40代：複数回答）

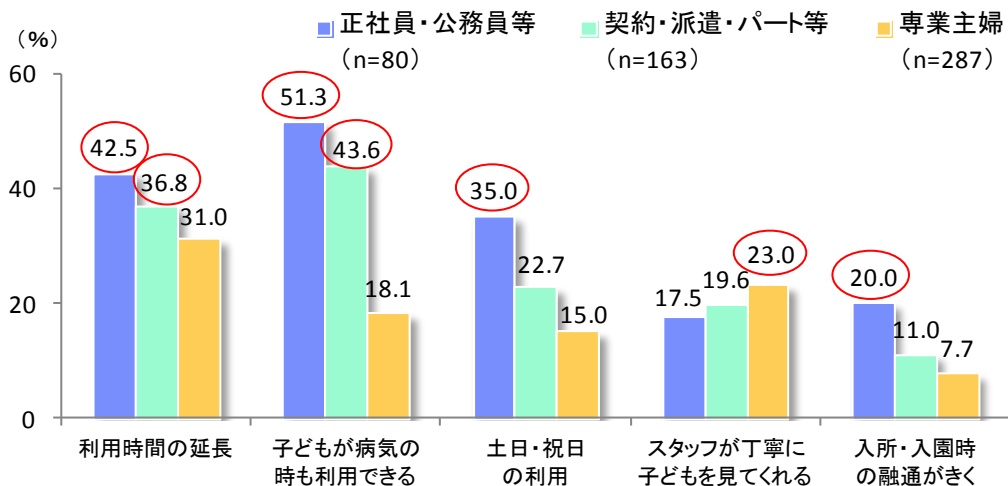
<全体・男女別>



<女性の年齢別>（項目抜粋）



<女性の就労状況別>（項目抜粋）



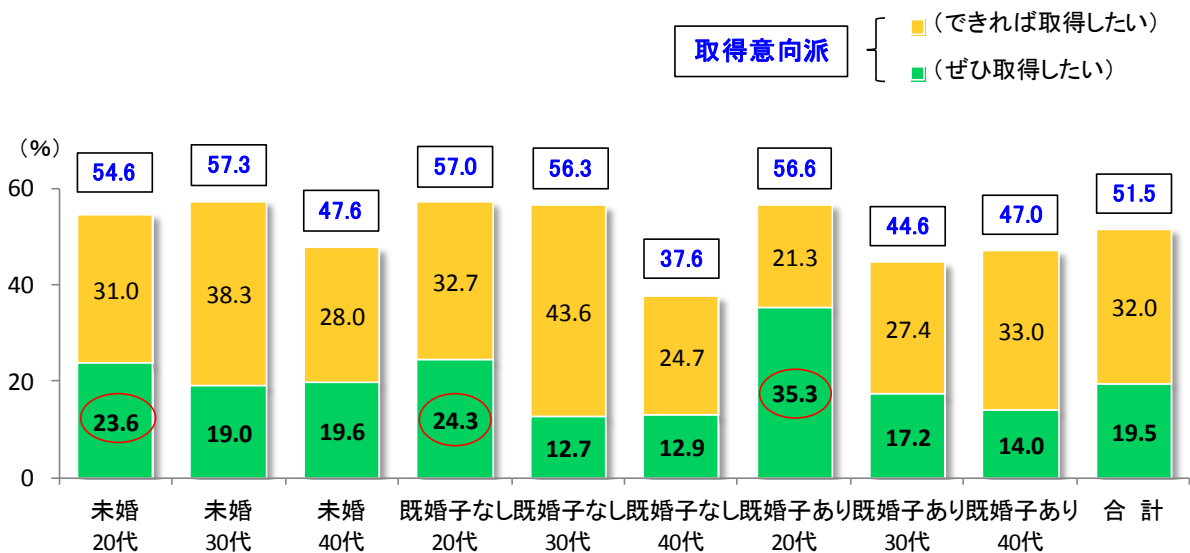
男性の育児休業取得意向は51% … 実際の取得率は2%
希望する育児休業期間に男女間で大きな差

■ 男性の育児休業の取得意向と実際

◇男性の育児休業取得率は2%。しかし、過半数は「育児休業を取得したい」意向

・男性の育児休業取得率は2%弱という状況ですが、取得したい意向は、20・30代男性で未婚者は56%、既婚者（子どもなし）で57%、既婚者（子どもあり）で51%といずれも5割以上に上ります。特に既婚者（子どもあり）の20代で「ぜひ取得したい」は35.3%と、30代（17.2%）・40代（14.0%）より高く、若い世代で相対的に“イクメン”志向が強い傾向である点が注目されます（図表11）。

図表11 男性の育児休業の取得意向（20～40代未婚・既婚男性）

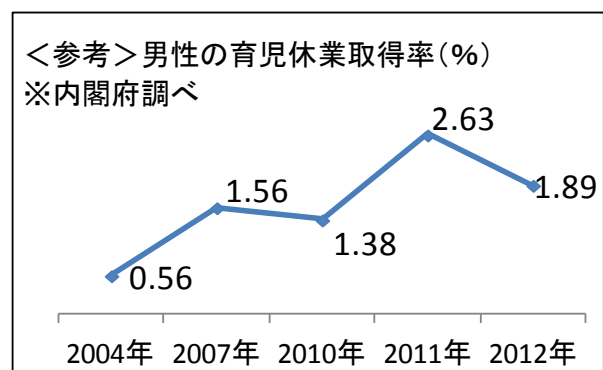


<男性就労形態別の育児休業の取得意向>

| 男性 | 取得意向 |
|-----------|-------|
| 正社員 | 52.6% |
| 公務員・教員 | 50.5% |
| 契約社員・パート等 | 55.2% |

※就業形態別の育児休業取得意向の差はあまりない。

<参考>男性の育児休業取得率の推移（内閣府調べ）

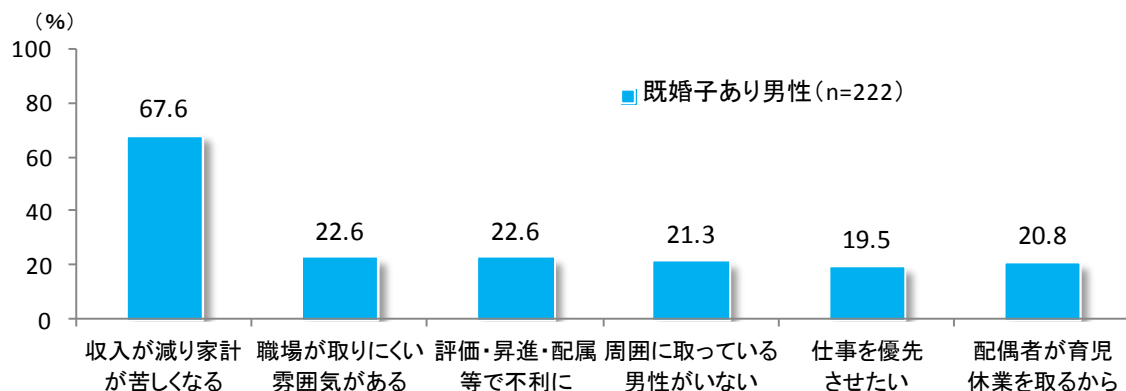


■ 男性が育児休業を取得したくない理由

◇「収入が減る」が67.6%。「取りにくい雰囲気」「昇進・配属等で不利」なども2割強

- ・子どもを持つ20～40代の既婚男性で、育児休業を取得したくない、あまり取得したくないという意向は3割以上(36.4%)ありました。最大の理由は「収入が減る」ですが、「職場が取りにくい雰囲気」「評価・昇進・配属等で不利」「周囲に取っている男性がいない」などの項目を2割強の人が挙げています。
- ・「配偶者が育児休業を取るから」との意見も2割強ありました。環境面の課題に加え、“女性主体の育児”意識も根強い様子が見えがえます(図表12)。

図表12 育児休業を「取得したくない」「あまり取得したくない」理由(複数回答)(子どもを持つ20～40代男性)



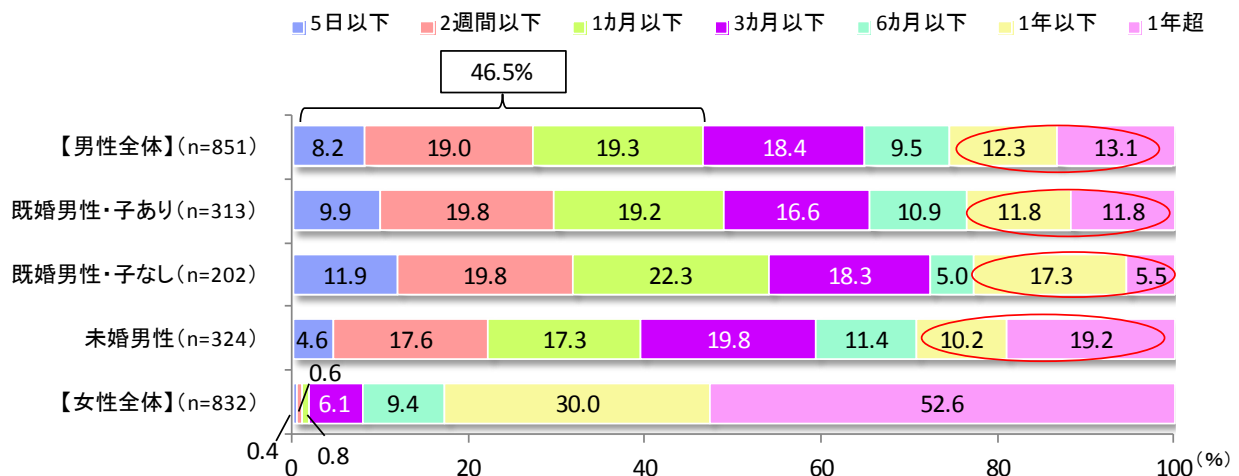
■ 男性が育児休業を取得したい期間

◇男性が希望する育児休業期間…約半数は1ヵ月以内を希望。一方で4人に1人は6ヵ月超を希望

- ・20～40代男性が育児休業を取得したい期間は、1ヵ月以下の回答が半数弱(46.5%)を占めています。女性自身が育児休業を取得したい期間として、1ヵ月以下と回答した割合は1.8%と男女間で大きな差があります。1ヵ月超を希望する割合を見ても男女間の意識の差が大きいことがうかがえます(図表13)。
- ・そうした中でも、6ヵ月超の期間を希望する男性は25.4%に上り、特に未婚男性では3割近くが希望しています。

職場において取得しやすい制度・環境等の整備や意識の変革がより進めば、現状約2%の男性の育児休業取得率も向上が期待できるのではないのでしょうか。

図表13 育児休業を取得したい期間(20～40代の未婚・既婚男女)



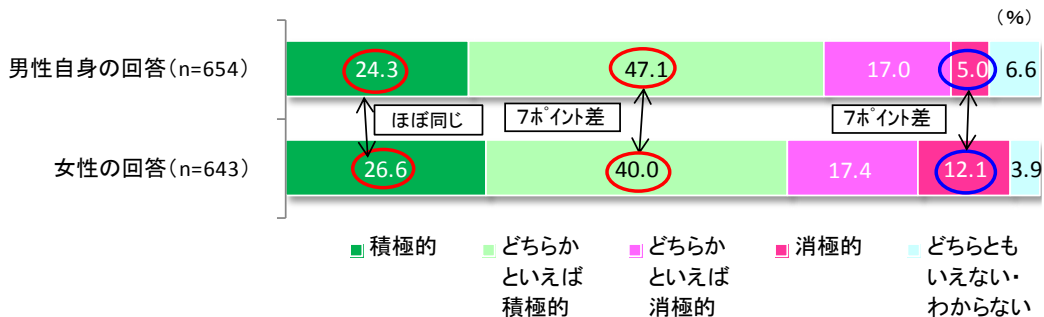
男性の積極的な育児参加は7割 … 女性からの評価はやや低め 夫が育児に消極的な理由も、男女間で意識の格差

■ 夫の育児参加状況

◇男性の積極的な育児参加は7割程度。女性からの評価はやや低め

- ・夫の育児への関わり度合いについて、「積極的」「やや積極的」と回答した男性（自身での評価）は71.4%に対し、女性（妻から見た夫の評価）は66.6%とやや下回っています（図表14）。
- ・「積極的」だという人への評価は、夫婦でほぼ一致（男性24.3%、女性26.6%）していますが、「どちらかといえば積極的」が男性47.1%に対し女性40.0%、「消極的」が男性5.0%に対し女性12.1%と7ポイント程度の開きが見られます。育児参加について、男性が思っているほど女性から評価されていないケースがあるのでしょうか。

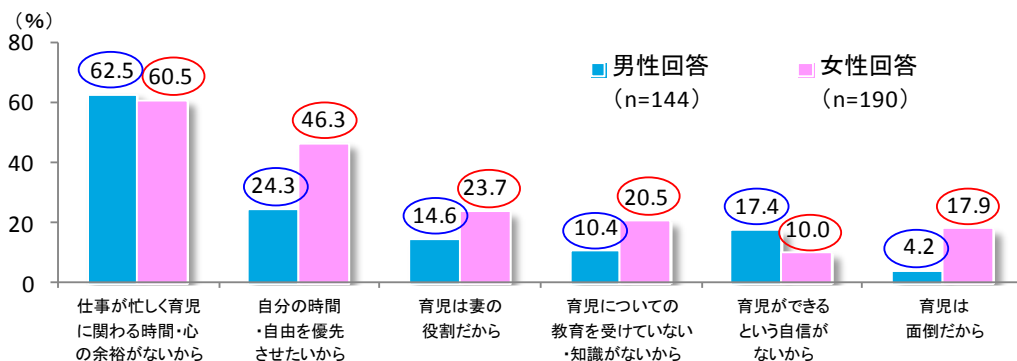
図表14 夫の育児への関わり度合いは（子どもを持つ20～40代既婚男女）



◇夫が育児に消極的な理由：「仕事が忙しく育児に関わる時間・心の余裕がない」が6割

- ・夫が育児に消極的（「消極的」＋「どちらかといえば消極的」）な理由（複数回答）は、男女とも6割強の「仕事が忙しく育児に関わる時間・心の余裕がない」が第1位となりました。第2位は「自分の時間・自由を優先させたい」ですが、男性の24.3%に対し、女性は46.3%とほぼ2倍の水準です。男性が思っている以上に、女性は“夫が自分の自由を優先させたいから”と感じているようです。
- ・「育児は妻の役割だから」（男性14.6%、女性23.7%）、「育児は面倒だから」（男性4.2%、女性17.9%）などの項目でも男女間で意識の格差が見られました（図表15）。
- ・「育児についての教育を受けていない・知識がないから」の女性回答も20.5%に達しており、男性に対しての啓蒙や教育機会等のいっそうの拡充が期待されます。

図表15 夫が育児に消極的な理由（育児に「消極的」「どちらかといえば消極的」と回答した人：複数回答）



男性の家事・育児への参加のためには 「長時間労働の是正」「柔軟な働き方」「職場の理解」「男性の意識」

■ 男性の家事・育児への参加を促すために必要なものは

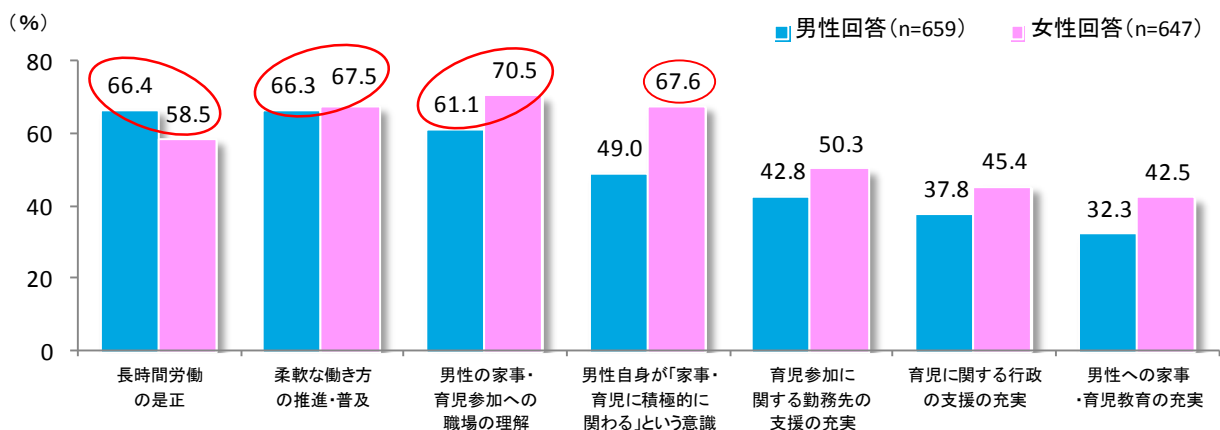
◇「長時間労働の是正」「柔軟な働き方の推進」「職場の理解」「男性の意識」がそれぞれ6割強
「勤務先の支援の充実」「行政の支援の充実」「男性への家事・育児教育の充実」も4割強

・“男性の家事・育児への参加を促すために必要だと思うもの”として、「長時間労働の是正」「柔軟な働き方（短時間・在宅・フレックス等）の推進・普及」「男性の家事・育児参加への職場の理解」「男性自身が『家事・育児に積極的に関わる』という意識」を6割強の人が挙げたほか、「育児参加に関する勤務先の支援の充実」「育児に関する行政の支援の充実」「男性への家事・育児教育の充実」も4割強の人が挙げています。個人・職場・行政それぞれにおいていっそうの充実・強化が求められる事項は多いと考えられます（図表16）。

◇男性は環境面の改善を重視、女性は「男性の家事・育児への参画意識も重要」と考える

・男性は「長時間労働の是正」「柔軟な働き方の推進・普及」など主に“環境面”に関する項目を上位に挙げていますが、女性は「男性の家事・育児参加への職場の理解」「男性自身の家事・育児に積極的に関わる意識」と、職場や男性の“意識面”が重要としている点は興味深いところです（図表16）。

図表16 男性の家事・育児への参加を促すために必要なもの(子どもを持つ20～40代男女:複数回答)



◇2015年4月から子ども・子育て支援新制度、改正次世代育成支援対策法がスタート

・2015年4月から幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡大や質の向上を進めていく「子ども・子育て支援新制度（内閣府・文部科学省・厚生労働省）」が本格スタートする予定です。

また、次代の社会を担う子どもの健全な育成を図るための「次世代育成支援対策推進法」が改正され、同じく2015年4月から10年間延長されます。

・こうした取り組みをもとに、国、自治体、保育施設、企業、家庭それぞれが一体となって子育てをめぐる環境整備やサービスの向上等が推進されることが期待されます。

**子どもを持つ20～40代では77%が教育資金を準備
積立額は子ども1人あたり月1～2万円が中心**

■ 教育資金の準備状況

◇20～40代で教育資金の準備をしているのは76.9%

・子どもがいる20～40代の既婚者で、子どもの教育のための貯蓄・資金準備をしている割合は76.9%です（図表17）。

年代別では、20代が76.5%、30代が77.8%、40代が75.8%であり、大きな差は見られませんでした。

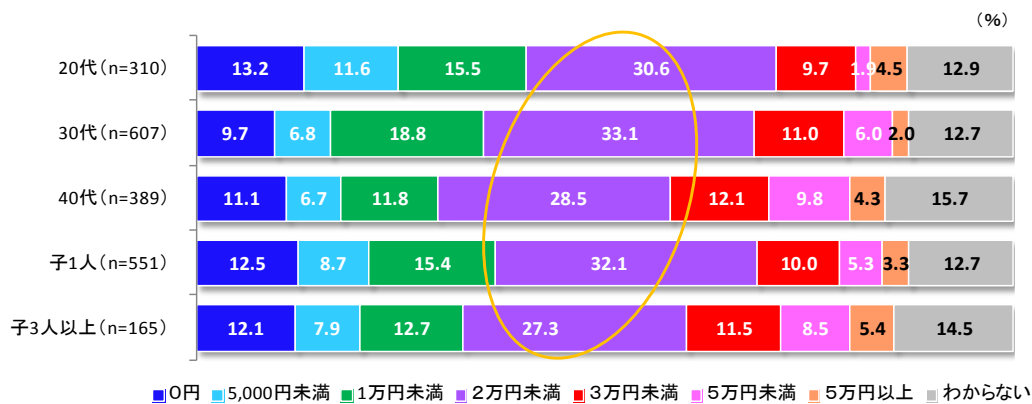
図表17 子どもへの教育のための資金準備はしているか(していたか)(子どもを持つ20～40代男女、n=1,306)



◇教育資金のための積立額は、子ども1人あたり月1～2万円が主流

・将来の教育資金のために積み立てている金額は子ども1人あたり「月に1万円から2万円」が最多です。子どもの数による大きな違いは見られません（図表18）。

図表18 将来の教育資金のために積み立てている子ども1人あたりの金額(子どもを持つ既婚男女計)

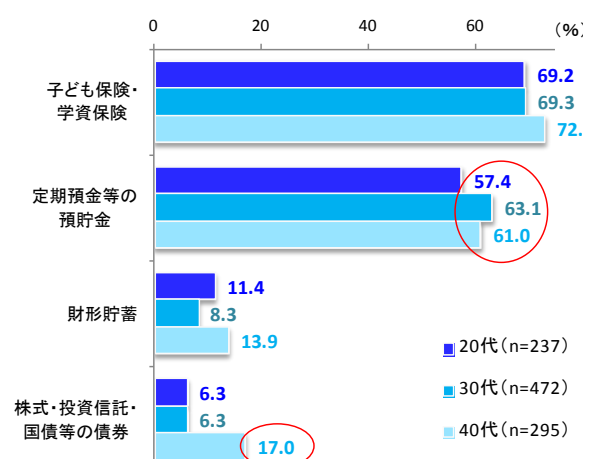


◇教育資金の準備手段は、「子ども保険・学資保険」「預貯金」が大半。40代では株式・投信なども

・子どもの教育のための貯蓄・資金準備の手段（複数回答）としては、約7割の人が「子ども保険・学資保険」を、約6割の人が「定期預金等の預貯金」を利用し、以下、「財形貯蓄」、「株式・投資信託・国債等の債券」の順となっています。（図表19）。

・年代別で見ると、40代では、「子ども保険・学資保険」「定期預金等の預貯金」が主体であるものの、「株式・投資信託・国債等の債券」を活用するケースが20・30代より多いのが特徴的です。

図表19 教育資金の準備手段



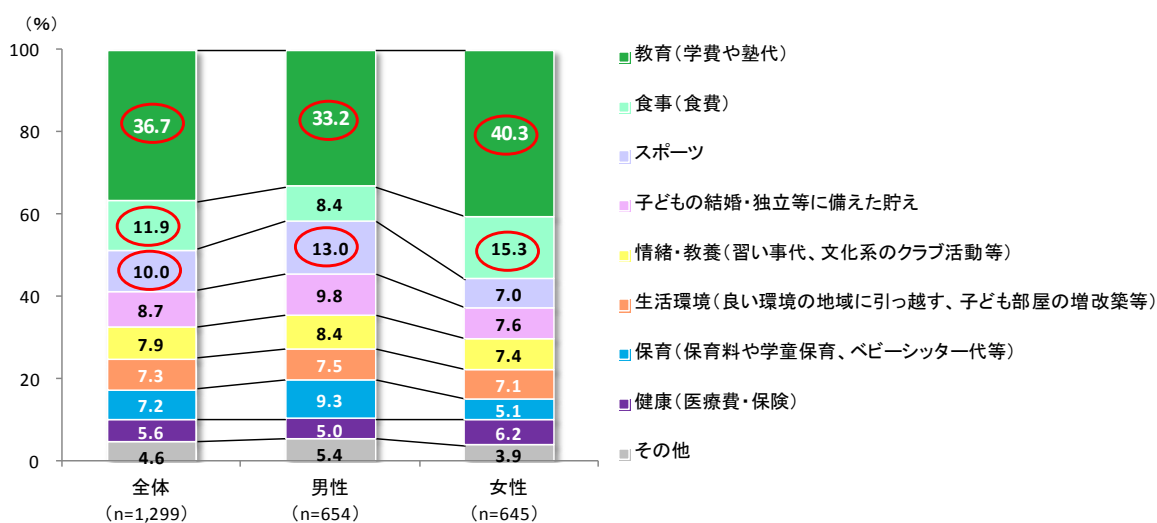
子育てで最もお金かけたいもの … トップは男女とも「教育」 子どもが多いほど“伸び伸び子育て”志向

■ 子育てでお金をかけたいもの

◇子どもに最もお金をかけたいもの … トップは男女とも「教育」

・子どもを持つ20～40代の男女に「子どもに最もお金をかけたいもの」を訊ねたところ、「教育」「食事」「スポーツ」がトップ3でした。男女とも「教育」がトップですが、第2位は、男性では「スポーツ」、女性では「食事」と違いが見られました（図表20）。

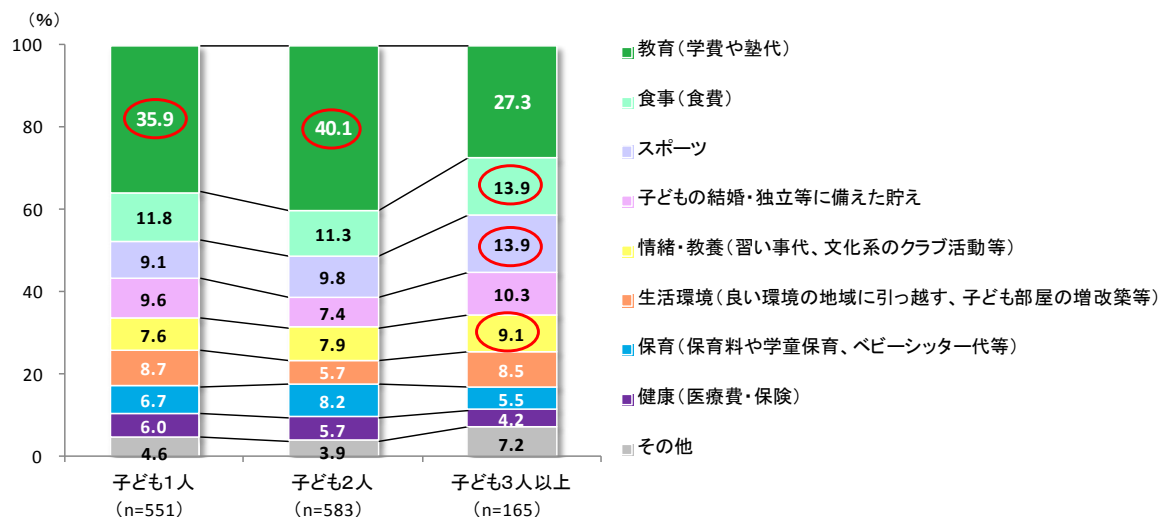
図表20 子どもに最もお金をかけたいもの（子どもを持つ20～40代男女）



◇子どもが多いほど“伸び伸び子育て”志向

・子どもの人数別に見ると、子どもが3人以上の場合は、1～2人の場合に比べて教育が低く（27.3%）、食事、スポーツ、情緒・教養にお金をかけたいとする割合が相対的に高くなっています。子どもが多いほど、伸び伸び育てたいと考える親も多いのでしょう（図表21）。

図表21 子どもに最もお金をかけたいもの（子どもの人数別）



【参考】アンケート調査の主なバックナンバー（明治安田生活福祉研究所）

| アンケート調査 | | 調査時期 |
|------------|-----------------------------------|---------|
| 結婚・ 出産 | ➤ 20～40代の恋愛と結婚（第8回 結婚・出産に関する調査より） | 2014年3月 |
| | ➤ 第7回 結婚・出産に関する調査 | 2013年2月 |
| | ➤ 第6回 結婚・出産に関する調査 | 2010年2月 |
| | ➤ 第5回 結婚・出産に関する調査 | 2009年3月 |
| 生活意識 調査 | ➤ 男性の幸せに関する意識調査 | 2012年3月 |
| | ➤ 女性の幸せに関する意識調査 | 2011年8月 |
| | ➤ 大学生に関する意識調査 | 2010年6月 |
| | ➤ 30～50代の夫婦に関する意識調査 | 2009年3月 |
| | ➤ 第2回若年層の就労に関する意識調査 | 2008年3月 |
| 介護 | ➤ 民間介護保険に関する意識等調査 | 2013年3月 |
| | ➤ 介護生活の実態と意識に関する調査 | 2012年6月 |

※詳しくは、明治安田生活福祉研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.myilw.co.jp/life/enquete/index.html>